

相馬の伝統 相馬野馬追



7月27日、国の重要無形民俗文化財の相馬野馬追が開幕、市内では総大将出陣式と宇多郷行列が行われました。

出陣式は、中村城跡内の相馬中村神社境内で行われ、相馬家第33代当主・相馬和胤氏の長男で総大将を務める行胤（みちたね）氏が「東日本大震災からのさらなる復興を願い、全騎馬軍勢を整え、数々の武勲を挙げ、無事帰還することを希望する」と訓示。

また、令和元年という改元の年にちなみ、相馬家から次男の陽胤（きよたね）氏も出陣。

全員で出陣の盃を上げ「相馬流れ山」を斉唱しました。

その後、総大将が騎馬武者を閲兵し、陣螺（じんがい＝ほら貝）の音を合図に、中村城跡の大手門から行列が出発。

甲冑（かっちゅう）に身を包み、色とりどりの指旗を背にした騎馬武者らは、沿道の観客から声援を受けながら威風堂々と市内を行進しました。

28日は南相馬市原町区の雲雀ヶ原祭場地で神旗争奪戦（しんきそうだつせん）などが、29日は南相馬市小高区の小高神社で野馬懸（のまがけ）が行われました。

騎馬武者らが出陣
相馬野馬追開幕



一千有余年の歴史を誇る相馬野馬追の開幕を翌日に控えた7月26日、中村城跡内の相馬中村神社で安全祈願祭と総大将出陣の宴が行われました。

安全祈願祭には、総大将と宇多郷勢の武者らが陣羽織姿で集合。神事を執り行い、祭りの安全と武運を祈願しました。

今年は、相馬家第33代当主・相馬和胤（かずたね）氏の長男の行胤（みちたね）氏が総大将を務めました。

また、令和元年という改元の年にちなみ、相馬家から次男の陽胤（きよたね）氏も出陣されました。

安全祈願祭
総大将出陣祝の宴



7月28日、雲雀ヶ原祭場地へ出陣していた宇多郷勢の騎馬武者らが、相馬中村神社への帰路につき、市内を凱旋する「お上がり」行列が行われました。

7月27日に甲冑に身を包んで出陣した騎馬武者らは、お上がり行列では陣笠・陣羽織に装いを替えて市内を行進。

沿道に詰めかけた観客からの拍手やねぎらいの言葉で温かく出迎えられました。

相馬野馬追「お上がり」行列

相馬の夏の風物詩

大瓜市



8月12日、400年の歴史があり市のふるさと行事である、宇多川町の大瓜市が開催されました。

当行事は、お盆の時期に用いる品物や供物などを買うそろえる盆市が起源で、宇多川町商店街振興組合の主催。

歩行者天国となった通りには、スイカなど果物だけでなく、お盆に必要な花などさまざまなものが並び、大勢の買い物客でにぎわいました。

特設ステージでは小学生対象のスイカたね飛ばし大会や大道芸人によるパフォーマンス、ミニライブなどが行われ、来場者は買い物やステージを楽しみました。

相馬まちなか夏祭り



市ふるさと行事のひとつ「相馬まちなか夏祭り」は8月3日～4日、クロスロード田町を会場に開催されました。

歩行者天国となった通りには幼稚園・保育園児たちが願いを込めた短冊が立ち並び、家族連れなどでにぎわいました。

田町通り中央に開設されたステージではYOSAKOIやフラダンス、バンドなどさまざまなプログラムが繰り広げられ、スーパーボールすくいなどの出店ではたくさん子どもたちが笑顔で楽しんでいました。

原釜尾浜海水浴場海開き



原釜尾浜海水浴場の海開きは7月20日に行われ、多くの海水浴客でにぎわいました。

そうま浜まつりのイベントは原釜尾浜海水浴場をひとつの会場と見立て、メインとなる特設ステージを中心に、浜辺にはウォーターライダーやスイカ割りなどのブースが設けられたほか、海の家や出店などが並びました。

訪れた海水浴客らは、ウォーターライダーなどを体験し、特設ステージで繰り広げられるチアリーディングなどを楽しみながら、待ちに待った海開きを満喫していました。

相馬市子ども親善使節団 豊頃町・大樹町を訪問



市子ども親善使節団結団式は7月18日、市民会館多目的ホールで行われ、使節団員となる児童と保護者ら約60人が

出席しました。市と市教育委員会主催で、子ども親善使節団派遣は今年で37回目。

昭和58年に姉妹都市となった北海道大樹町、豊頃町との交流を目的に、市内小学校から集まった5～6年生23人を8月3日～5日に派遣。

派遣児童を代表し、狩野柚葉さん（磯部小5年）は「相馬野馬追や報徳の訓えなどの文化と市が震災からの復興にがんばって取り組んでいるこ

とを伝え、大樹町や豊頃町との懸け橋になれるようたくさんの人と交流してきます」と抱負を述べました。



自慢の歌声を披露 相馬盆唄大会



子どもの部第1位
太田賢吾さん



一般の部第1位
佐藤百合子さん

相馬盆唄大会は8月3日、市民会館で開かれ、子どもの部9人、一般の部11人が出場しました。大会は、相馬盆唄の普及と振興を目的に今年で3回目。

市内外から集まった20人の出場者は、相馬盆唄の1番を2回または2番まで歌い、盆唄の節回しや音程などを審査されました。

出場者は自慢の歌声を披露し、会場を盛り上げました。子どもの部と一般の部で3位までの入賞者は、相馬盆踊り大会（13日～14日）で歌声を披露し、同大会に花を添えました。

明治学院大学生による 子どもたちへの 読み聞かせ



明治学院大学生のサークル「おはなしポップコーン」とチクタクプロジェクトのメンバーは8月10～11日、本市を訪れ、子どもたちとの交流や市内の視察などを行いました。メンバーは、東日本大震災の被災地の子どもたちに絵本の読み聞かせによる楽しい時間を過ごしてもらうことを目的に訪れ、今年で7回目。絵本の朗読では子どもたちが登場人物の絵札を持って参加し、早口の朗読に合わせて次々と登場する人物の札を一生懸命上げ、楽しみました。

相馬の夏の風物詩 玉ノ井部屋 土俵開き

大相撲玉ノ井部屋の相馬夏合宿土俵開きは7月30日、松川浦スポーツセンター相撲道場で行われました。

当日は、玉ノ井親方や志賀駿男先代親方、力士、玉ノ井部屋相馬市後援会などの関係者が出席し神事が執り行われ、合宿中の安全と力士たちの活躍を祈願しました。

玉ノ井親方は、関係者への感謝の言葉と「この合宿で鍛え上げて良い結果を残したい」と抱負を述べ、力士一人一人を紹介しました。

相馬夏合宿は、8月20日まで行われました。



そうまの海で、学ぼう！作ろう！遊ぼう！

そうまの海で、学ぼう！作ろう！遊ぼう！は7月27日、原釜尾浜海水浴場で行われ、多くの家族連れでにぎわいました。

相馬青年会議所主催、創立50周年記念事業として開催されました。

海水浴場の一角にウォータースライダー、宝探しなどの6つのワークショップブースが設けられ、参加した子どもたちはお笑い芸人コンビの

はんにややトータルテンボスらと一緒に体験しました。

スペシャルゲストとして登場した間寛平さんは、子どもたちと触れ合った後、被災した3県を巡るKANPEIみちのくマラソンをスタート。

間さんは本市をスタート後、8月9日に岩手県釜石市にゴールしました。

当日は天気にも恵まれ、笑いの絶えない楽しい夏の日となりました。

自然の恵みを学んで味わう アイスクリームスクール



ハーゲンダッツアイスクリームスクールは7月26日、中央児童センターで開催され、約30人の子どもたちが参加しました。

サントリーホールディング株式会社とグループ会社のハーゲンダッツジャパン株式会社が、同グループの東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として開催。

スクールは、アイスクリームを題材とした授業やクイズなどが行われたあと、ハーゲンダッツアイスクリームの試食を行いました。

参加した子どもたちは、アイスクリームが自然の恵みである牛乳や果物などから作られていることを学んだほか、アイスクリームの原料のバナラビーンズや小豆のにおいをかぐなど興味津々に授業やクイズに参加しました。



教育復興子育て基金に 寄付ありがとう



7月22日、ニューパワー相馬合同会社が市役所を訪れ、教育復興子育て基金に寄付しました。

ニューパワー相馬合同会社は、株式会社フジタ、株式会社IHI、株式会社小野中村からなる連合体で、市が光陽地区での太陽光発電モデル事業に選定した合同会社です。

合同会社を代表し増山祐一株式会社フジタ職務執行者が太陽光発電事業の収益の一部を寄付金として立谷市長に手渡しました。

ニューパワー相馬による寄付は、平成26年から毎年行われ、今年で6回目です。

姉妹都市と友好都市 少年野球 で交流

流山市と稲城市、本市の姉妹都市と友好都市の交流野球大会は8月11日、相馬光陽ソフтбоール場で開かれ、3市の少年らが交流を深めました。本市と流山市は夏休みを利用しお互いが1年おきに訪問と交流を重ねており、流山市との交流は今年で35回目。

さらに今年度は友好都市である稲城市との交流を加え、3市で初の交流野球大会になりました。

選手らは楽しみにしていた試合で元気にプレーし、互いの親善を深め、夏休みの楽しい思い出をつくりました。



水辺での万が一に備える

海の安全教室

海の安全教室は7月25日、磯部小学校のプールで行われ、児童22人が参加しました。

夏休み期間に多く発生する水難事故を防ぐことを目的に開催され、福島海上保安部の主催。

児童らは、水辺に落ちてしまった際に安全に救助を待つための姿勢である背浮きや救命胴衣の適切な使用方法など、水難事故への対処法を学びました。



相馬双葉漁協 シラス初水揚げ

相馬双葉漁業協同組合によるシラスの試験操業が7月17日に始まり、今季初水揚げが行われました。

当日は24隻の漁船が市と南相馬市、浪江町の各漁港より朝早くから出港し、水揚げされたシラスは約7トン。

水揚げされたシラスは色目やサイズにより値がつけられ、市内の水産加工業者により競り落とされました。

競り落とされたシラスは、鮮度の良いうちに加工され放



放射性物質検査を経て、県外を中心に流通されました。

タスキで絆をつなぐ

「未来への道1000km縦断リレー2019」スタート式



青森から東京まで東日本大震災で被災した地域を縦断しタスキをつなぐ「未来（あした）への道 1000km縦断リレー2019」のランナーは7月31日に市役所にゴールし、翌日の8月1日、本市をスタートしました。

東京都などの主催のもと、2013年から復興と東京オリンピックの気運を高めることを目的に開催されており、今年が最後の開催。

スタート式では、主催者を代表し公益財団法人東京都スポーツ文化事業団の早崎道晴事務局長のあいさつの後、佐藤憲男副市長が「オリンピックの聖火ランナーになったつもりで精一杯走ってください」とランナーを激励しました。

ゲストランナーとして元競泳選手の森田智己さんが参加。早崎事務局長らからランナーにタスキが手渡され、大勢の観客から熱い声援を受けながら、9日目ゴールの福島県庁を目指してスタートしました。

青森から東京までの約1,300キロメートル・152区間を7月24日から8月7日までの15日間、ランニングと自転車ですぐ走りました。



エバラ食品工業株式会社

被災者へ焼き肉のタレを寄贈



浅野高幸エバラ食品工業株式会社経営企画部顧問は7月28日、市役所を訪れ、同社の商品である焼き肉のタレ「黄金の味」を寄贈しました。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の被災者支援を目的に、同社の商品を400本寄贈。

いただいた商品は、災害市営住宅などの各世帯に配布しました。

海の事故ゼロを呼びかけ



海の事故ゼロキャンペーンの一環として7月25日、原釜尾浜海水浴場などで一日相馬港長らによる啓発活動が行われました。

啓発活動に先立ち、一日相馬港長と一日福島海上保安部長の委嘱式が行われ、一日相馬港長に佐藤愛佳里さん、一日福島海上保安部長に石橋由望さんが委嘱されました。相馬港が特定港に指定（平成29年10月）されて初の一日

一日相馬港長

相馬港長の委嘱となります。

佐藤一日相馬港長は、「海の事故ゼロを目指し相馬港の安全確保に努めましょう」とあいさつしました。

啓発活動は海水浴場から開始し、石橋一日福島海上保安部長が「お酒を飲んだあとの遊泳は非常に危険ですので、お酒を飲んだら遊泳しないようお願いします」と監視塔から海水浴客へ注意を呼びかけました。

こっそり見た秘密の時間 ぬいぐるみおとまり会

図書館企画「ぬいぐるみおとまり会」は8月3日～4日、当館で開催され、事前に申し込んだ11人の子どもたちとぬいぐるみが参加しました。

はじめに子どもたちとぬいぐるみは一緒におはなし会に参加し、その後ぬいぐるみのおとまり会がスタート。

ぬいぐるみは、持ち主の子どもたちのために本を選んだほか、ほかのぬいぐるみとお話をするなど楽しい夜を過ごしました。

後日、おとまり会を終えたぬいぐるみを迎えにきた子どもたちは、お気に入りのぬいぐるみがお泊りする様子をこっそり写真におさめたアルバムなどをプレゼントされ、また、ぬいぐるみが子どもたちのために選んでくれた本を借りることもでき、とても嬉しそうにしていました。



各種競技で活躍 大会出場報告

【野球】

●出場大会 2019年澎湖縣新島盃國際少年棒球大会

●出場選手

- ▽氏家大和選手(桜丘小6年)
- ▽武山幸平選手(桜丘小6年)
- ▽渡辺倅太選手(八幡小6年)
- ▽坂本瑠夢叶選手(八幡小6年)
- ▽山野井啓大選手(八幡小6年)
- ▽井上焯成選手(八幡小6年)

【ボクシング】

●出場大会 第6回全日本アンダージュニアボクシング王座決定戦

●出場選手

▽新井海結選手(中二小6年)

●出場大会 第20回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

自転車交通安全教室

八幡小学校

自転車交通安全教室は7月23日、八幡小学校で開催され、児童ら約50人が参加しました。

夏休み期間中の子どもの自転車事故の防止を目的に、相馬地区交通安全協会八幡支部の主催。

参加した児童らは、自転車シミュレーターを使用して実践的な安全確認を学びました。



●出場選手

▽大宮蒼空選手(桜丘小4年)

【空手】

●出場大会 第19回全日本少年少女空手道選手権大会

●出場選手

▽山本大翔選手(中二小1年)